

(陳受28第48号)

大野田小学校校舎増築計画の見直しに関する陳情

受理年月日

平成28年8月30日

陳情者

陳情の要旨

去る7月9、15日、大野田小学校で、今後、児童数の増加が見込まれるという理由で、校舎を増築する工事説明会が開かれました。参加者からは「子どもたちと育てたビオトープをつぶさないでほしい」「隣接する小学校と学区の見直しをするべき」「既存校舎の中の見直しをどれだけ検討したのか」「一時的な児童数増加に予算を使って、減少した後はどうするのか」「工事車両の出入りはどうするのか」などの意見や疑問が出されましたが、これらについて納得のいく回答はなく、校庭を減らさないためにビオトープを犠牲にする選択をしたという答えが学校長からされました。これに対し、ある3年生の保護者は「ビオトープがなくなるというので子どもが泣きじゃくってなだめるのが大変でした。何とかならないのでしょうか」と困惑していました。

計画どおり増設した場合、校舎と隣地との離隔距離は2～3メートルほどしかなく、隣接する住宅の市民生活に著しい影響が出ます。説明会では、南側のフェンスをあけて工事車両を通行させるということでしたが、その部分の道路は道路幅も狭く湾曲しており、工事車両が相互通行することは困難な生活道路で、大野田小学校に通う児童の通学路にもなっています。南側フェンスの向かい側には障害者総合センターの正面玄関があり、送迎車両や障害者・利用者の出入りも多く、業者車両の通行が日中を通して多いことから、工事車両の通行は大変危険です。加えて、レストランの駐車場出口もあり、工事車両との接触などのトラブルが発生する可能性も高いと思われます。

こうしたさまざまな問題がある工事を強行して、貴重な子どもたちの教育資源であるビオトープを壊せば子どもたちの心は大きく傷つくでしょうし、数カ月間も授業時間に工事を行うなどしたら、学習に影響が出るのは必至です。何よりも、子どもたちの気持ちを第一に考えるべきではないでしょうか。

どうか、地域住民や子どもたちの意見を聞いて、大野田小学校校舎増築計画を見直してください。